**有形文化財（工芸品）**

## ４１．　正院焼双鯉青海波文大鉢　１口

■指定年月日　昭和 48 年 6 月 5 日 (1973)

■所　在　地　飯田町

■寸　　法　径 37.5cm　高 6.4cm　高台径 17.1cm

■所　有　者　個人

正院村（現在の正院町）で、江戸時代の終わりごろ、弥蔵（次兵衛）が焼いた正院焼の大鉢である。白色と群青色の青海波の中に、紫色で二尾の鯉が描いてある。鉢の内がわの周りには、九谷風の連続模様がある。裏面には、緑色で唐草模様を３つ描き、底の中心に正院の銘がある。

鯉の色は、正院焼独特の茶色が混じった紫色で、ほかの焼き物には例が少ない色である。高台周りは無釉で、茶褐色の素地がむき出しとなっている。加賀の九谷磁器と違い、正院焼は鉄分の多い陶土を原料とした陶器であるため、このように白土を化粧掛けしてから彩色しているが、その影響でやや濁った色調になりやすい。

全体として、素朴な中に力強さが溢れた重厚な作品で、現在市内で発見されている 80 数点の中でも、特に保存すべき優品である。